

稲作管理情報（中干し後の水管理・草刈り）

令和 8 年 6 月 2 5 日
高岡市農業協同組合
高岡農林振興センター

1 水稻の生育状況

- ・ 6 月 9 日頃のコシヒカリの生育は、平年に比べ、草丈は長く、茎数はかなり多く、葉色は並となっています。また、いずれの品種も葉齢の展開がかなり早く、生育が早くなっています。

表 JA 高岡管内生育調査結果（6 月 9 日現在）

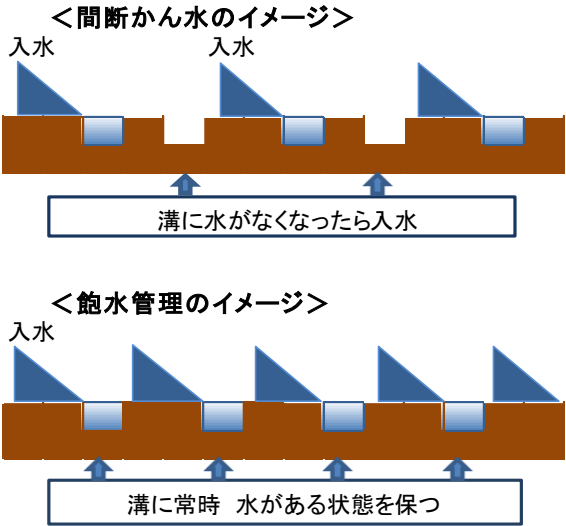
品種		草丈 cm	茎数		葉齢	葉色	田植日
			本/株	本/m ²			
てんたかく (早生)	本年	41.8	22.6	472	9.9	4.2	5/3
	昨年	33.3	19.2	423	9.1	4.4	4/30
	平年	32.5	20.9	430	9.0	4.5	5/2
コシヒカリ (中生)	本年	33.8	20.8	414	8.2	4.3	5/13
	昨年	30.1	13.2	274	7.4	4.4	5/11
	平年	29.2	13.1	270	7.3	4.3	5/13
富富富 (中生)	本年	29.6	15.3	352	7.5	4.4	5/16
	昨年	22.0	9.7	215	6.4	4.4	5/18
	近年	27.1	11.2	238	6.7	4.3	5/14
てんこもり (晩生)	本年	33.2	28.6	618	10.4	4.2	4/29
	昨年	25.9	18.4	375	8.9	4.4	4/29
	平年	27.8	23.6	444	9.0	4.5	5/2

営農記録ノートを活用しましょう

- ・てんたかくの穂肥と防除については、「営農記録ノート」 P30、32 を確認し、作業を行ってください。
- ・農作業後は、P29、33 の「農作業のあしあと」 にしっかり記録しましょう。

2 中干し後の水管理 ～中干し後は間断かん水を行いましょう！～

- ・ 中干しをまだ開始していない場合は田植後 24 日頃を目安に遅れずに開始しましょう。
- ・ 中干しは、一度に強く干し上げず、「田面に小さな亀裂が入る程度」の田干しを繰り返し、地耐力を高めましょう。
- ・ 中干し後は、間断かん水を行い、幼穂形成期頃（コシヒカリは 7 月 10 日頃）までに「足跡の深さ 3 cm 程度」まで田面を固めましょう。間断かん水中は、田面を乾かしすぎないように注意しましょう。
- ・ 幼穂形成期頃（コシヒカリは 7 月 10 日頃）から出穂期は、最も多くの水分が必要な時期のため、足跡に水が残る程度の飽水管理を行いましょう。



3 カメムシ対策 ～越冬したカメムシが多いことから、草刈りで発生量を抑えましょう！～

(1) 畦畔等の草刈り

- ・ 今年もカメムシが多発しており、今後も高温が予報されていることから、さらに増加が見込まれます。早生の出穂 2 週間程度前までに、畦畔等の草刈りを徹底し、カメムシの発生量を抑えましょう。また、その後は、イネ科雑草の穂が出ないようにこまめに草刈りをしましょう。

草刈り運動期間	：	6 月 26 日（金）～ 7 月 5 日（日）
県下一斉草刈り日	：	6 月 27 日（土）～ 6 月 28 日（日）



(2)麦の収穫あとほ場の管理

- ・ 放置しておく と、雑草が繁茂しカメムシの生息地となるため、緑肥等を作付けしましょう。
- ・ 保全管理とする場合は、「耕起」や「耕起＋代かき」を行い、雑草を土中に埋めましょう。その後も雑草が繁茂しないように管理しましょう。

4 「てんたかく」の穂肥 ～必ず幼穂長を確認しましょう！～

(1) 基肥一発肥料(エコ早生専用)の場合

- ・ 原則、追肥はしない。ただし、6月末になっても葉色が極端に淡い場合（4.0 未満のとき）は、速やかに追肥 3 号を 7 kg/10a 程度施用しましょう。

(2) 分施体系の場合

- ・ 1 回目の穂肥は幼穂長 1 mm の時期に遅れずに施用しましょう。
- ・ 2 回目は 1 回目の 10 日後に施用してください。
- ・ また、生育量に応じて、施用時期や施用量を調整しましょう。

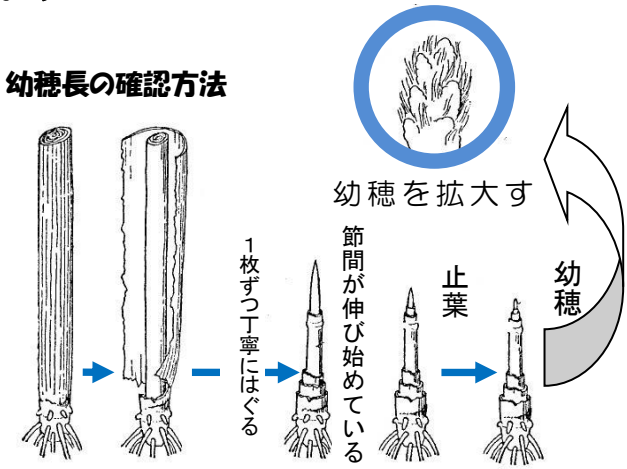


表 土壌区分別の施肥量の目安（分施）

	施用時期 生育の目安	追肥 3 号 (kg/10a)		
		砂壤土	壤土（洪積含む）	粘質土
1 回目	幼穂長 1 mm の頃 葉色（葉色板）4.0～4.5	10	10	10
2 回目	1 回目の 10 日後	15	12	10

- ・ 葉色が濃い（4.5 以上）かつ茎数過剰（30 本/株）の場合
⇒ 1 回目穂肥の施用時期は 2 ～ 3 日遅らせる。
- ・ 砂壤土で葉色が淡い（4.0 未満）場合
⇒ 1 回目穂肥の施用量を多くする（追肥 3 号：13kg/10a 程度）。

5 紋枯病の防除（随時防除）

- ・ 前年発生が多かったほ場や過繁茂のほ場では紋枯病が発生しやすいため、発生がみられたら随時防除を実施しましょう。

表 紋枯病防除の目安

体系	薬剤名	散布量	散布時期	使用時期
粉剤	モンカットファイン 粉剤 20DL	4 kg/10a	早生：出穂 14 日前頃 中生：出穂 10 日前 てんこもり：出穂 7 日前	収穫 14 日前まで
粒剤	モンガリット 1 キロ 粒剤	1 ～ 1.3kg/10a	出穂 2 ～ 3 週間前 （遅れずに散布する）	収穫 30 日前まで

～農作業中の事故と熱中症の防止対策を徹底しましょう～

- ① 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行う。
- ② のどの渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給する。
- ③ できるだけ複数名で作業を行い、体調に異常がないか確認し合う。
- ④ 帽子の着用や空調服の活用、対策アイテムを活用する。

